

2月17日 本日の為替見通し

ポイント

今日は金曜日。今週も、ギリシャで始まり、ギリシャで終わりそうである。月曜日の朝はギリシャ議会が財政緊縮法案を可決して始まり、15日のユーロ圏財務相会合が延期され、ギリシャ第2次支援策は、19日(日曜)にユーロ圏財務省の高官が会合をもち、紆余曲折の末になんとか、来週2月20日に合意されるとの観測が多くなっている。

報道によれば、15日の財務相電話会議では、協議中のギリシャ救済パッケージでは、2020年の債務比率をGDP比120%に抑えなければならないが、トロイカの報告では129%になり、達成できないことになる。達成させるために、「ギリシャ向け融資金利を引き下げる」、「1300億ユーロの支援規模を拡大する」、「民間債権者に負担増を求める」、「ECB保有のギリシャ債をEFSFに売却し、利益を放棄させる」が考えられている。

また、これとは別に、第2次ギリシャ救済パッケージ全体を承認せず、民間債権者のギリシャ債務交換だけの開始を決める可能性もあるとのこと。昨日、ドイツ紙ヴェルは「ECBが500億相当の保有するギリシャ債を新発債に交換」とあり、利益は中銀経由で政府に分配され、自由に活用する(ギリシャ支援に使うことは明白と思われる)。これは、ECBが民間投資家と共に、強制的にギリシャ債務交換に参加することを避ける狙いとも言われている。

ともかく、ギリシャ政府はユーロ圏財務相から要求されている、残りの3.25億ユーロの歳出削減を合意し、全ての要求をのんだ。あとは、「まな板のこい！」で、ユーロ圏財務相がどのように判断するのであろうか？ さて、さて、どちらに転ぶのであろうか？ また、それ以外の方向へ転がる可能性も意識せざるを得ない。

最近ギリシャ問題が相場を動かしているが、ちょっと頭を整理する必要がある。問題の本質は、ギリシャ=通貨ユーロではなく、ギリシャはユーロ加盟国一つで極小さい国であり、現状は「尻尾が体を動かす」ことに似ているのでは？ ギリシャに対して、デフォルトリスクや、ユーロ離脱のリスクが問いただされ、加盟している強国から耐えがたいような要求を突き付けられ、国内では市民の抗議デモが多発。議員からも反発する発言も毎日聞こえている。

それでも、ユーロは1.31台で推移し、考えようによってはなぜ下落しないのか非常に不思議な動きで、もし、ギリシャ問題が何らかの方法で解決されたとしたら、EURUSDはどうなるのであろうか？「売り材料に反応がなければ買い」のセオリーからすれば上ではとわられてならないが、はたしてどうなるのであろうか？

それと、円は、円独自の材料により、特にクロスでは、新たな相場の領域に入るように思えてならない。

本日の重要な経済指標 発言・その他

◎発言・その他

08:00 ブラード NZ 中銀総裁(講演)
08:50 日銀金融政策決定会合議事要旨(1月23-24日開催分)
12:00 白川日銀総裁(講演)
20:15 メルケル独首相と、モンティ・イタリア首相と首脳会談
20:30 クノット・オランダ中銀総裁(講演)
04:00 ポーゼン英政策委員(講演)
OECD 競争に関するグローバルフォーラム(パリ、最終日)

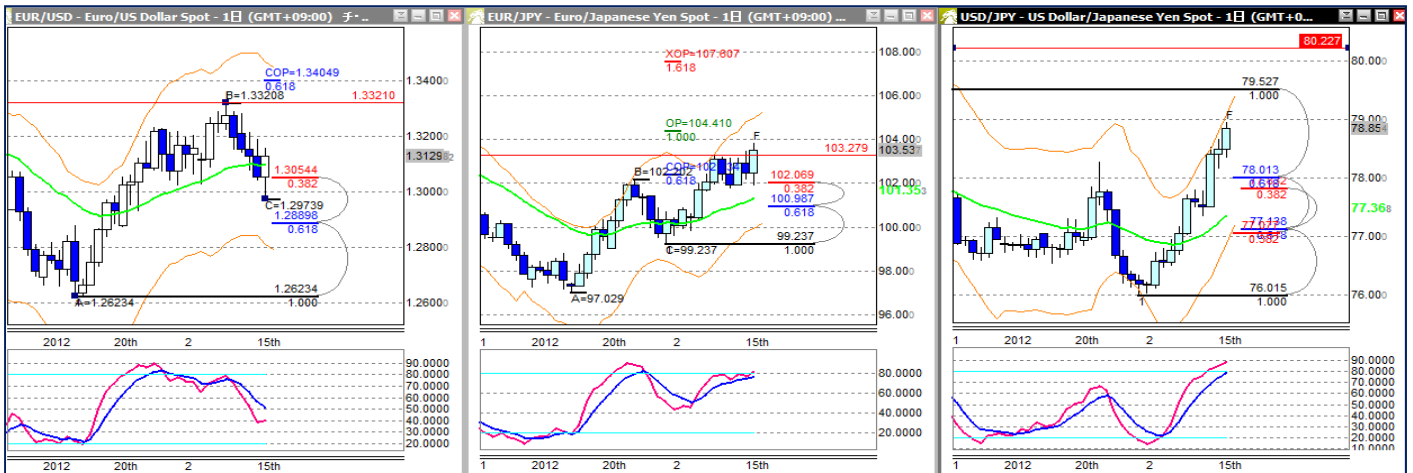
◎注目の経済指標

21:00 カナダ消費者物価指数
22:30 米消費者物価指数

本日の主な経済指標と発表予定

16:00	GER 1月 生産者物価指数=前月比予想 0.3% 12月-0.4%、前年比予想 3.2% 12月 4.0%
18:00	EUR 12月 経常収支=予想 11月 10億ユーロ
18:30	GBP 1月 小売売上高=前月比予想-0.3% 12月 0.6%、前年比予想 0.5% 12月 2.6%
19:00	EUR 12月 建設支出=前月比予想 11月 0.8%、前年比予想 11月 0.2%
21:00	CAD 1月 消費者物価指数=予想 0.3% 12月-0.6%、前年比予想 2.3% 12月 2.3%、カナダ中銀コア=前月比予想 0.1% 12月-0.5%、前年比予想 1.9% 12月 1.9%
22:30	CAD 1月 景気先行指標指数=前月比予想 12月 0.8%、
22:30	USD 1月 消費者物価指数=前月比予想 0.2% 12月 0.0%、前年比予想 2.8% 12月 3.0%、コア前月比予想 0.2% 12月 0.1%、コア前年比予想 2.2% 前回 2.2%
0:00	USD 1月 景気先行指標総合指数=予想 0.5% 12月 0.4%

EURUSD・EURJPY・USDJPY のマーケット・レベル



EURUSD(日足) = 25 日指数移動平均線は 1.3099、終値ベースではこの水準を上回っている。DOPup=1.3468、DOPdn=1.2812。スロー・ストキャスティックは%K=40.52、%D=50.81、売りを継続し、ベースはニュートラルゾーンに近い。上値のポイントは 1.3200、1.3321、下値のポイントは 1.3054、1.2890。予想レンジは 1.3050 ~1.3200。

EURJPY(日足) = 25 日指数移行平均線は 101.36、この線を下限に上昇トレンドが続いている。DOPup=104.98、DOPdn=99.93。スロー・ストキャスティックは%K=81.99、%D=77.01、買いから売りへの変化は一旦リジェクトされ、ベースは買われ過ぎゾーンに近い。上値のポイントは 104.41、107.61、下値のポイントは 102.07、100.99。予想レンジは 102.40~104.50。

USDJPY(日足) = 25 日指数移動平均線は 77.36、この線を下限に上昇トレンドが続いている。DOPup=79.09、DOPdn=76.89。スロー・ストキャスティックは%K=89.40、%D=79.52 で、買いを継続、ベース買われ過ぎゾーンに近い。上値のポイントは 79.52、80.22、下値のポイントは 78.01、77.65。予想レンジは 78.50~79.50。

本日のCFD見通し Spot.WTIとSpot.Goldのマーケット・レベル

ポイント

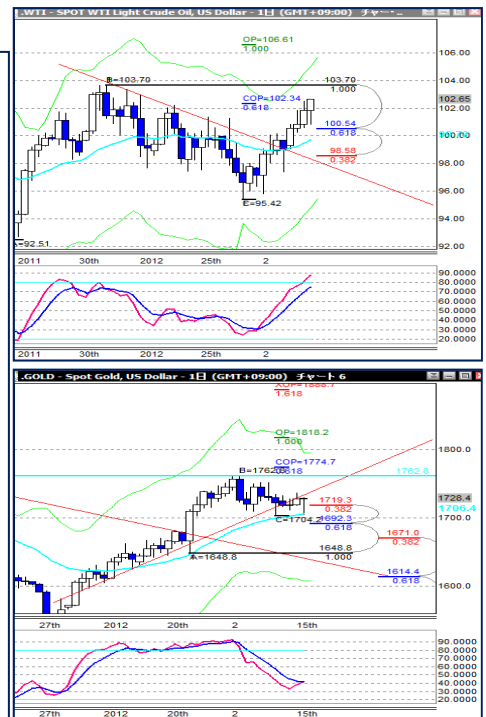
イラン核開発問題は、イスラエルの出方にかかっており、不安定要因は残ったままである。相場の行方はそれ以外にも、ギリシャ第 2 次支援の実施の有無と、米経済の回復度合いにかかっている。昨日も新規失業保険申請件数、米住宅着工件数、米フィラデルフィア連銀業況指数と強く、リスクオンの流れとなり、堅調に推移したが、今年に入り景況感の改善を示唆する経済指標が目立って多くなっている。バーナンキ FRB 議長は引き続き「景気回復は、意気消沈するほど穏やか」とは言っているが、連銀総裁からは、金融緩和に反対する声が多い。

◎Spot.WTI(Light Crude Oil)

EMA は 99.72 で上昇トレンドが続き、ストキャスティクスも買いを継続、テクニカルには先の高値 103.70 を超えてくるかがポイントとなり、ブルな相場の流れが続いている。

◎Spot.Gold

EMA は 1706.44 で、かろうじて終値ベースではこの水準を維持し、上昇力は鈍いが、ストキャスティクスは買いに転換する可能性を示唆しており、1700 を終値ベースで割り込めばベアなセンチメントに変化するが、引き続き弱いながらもブルトレンドを維持している。



Spot.WTI(Light Crude Oil)(.WTI 日足) = 25 日指数移動平均線は、99.72 で上昇トレンドが続いている。DOPup=105.02、DOPdn=94.80。スロー・ストキャスティックは%K=87.32、%D=75.34 で、買いを継続し、ベースは買われ過ぎゾーンに近い。上値のポイントは 103.70、106.61、下値のポイントは 102.34、100.54。レンジ予想は 102.00 から 103.70。

Spot.Gold(.GOLD 日足) = 25 日指数移行平均線は、1706.44、日中ではこの線を下限に下げ止まっている。DOPup=1795.42、DOPdn=1607.82。スロー・ストキャスティックは%K=42.29、%D=42.48 で、売りを継続しているが買いに変化する兆しもあり、ベースはニュートラルゾーンに近い。上値のポイントは 1762.8、1774.7、下値のポイントは 1704.2、1692.3。レンジ予想は 1715~1760。

前日の海外市場の動き

朝方は、豪雇用統計が強く、AUD 買いの流れから始まり AUDJPY は上昇したが、ギリシャ第 2 次支援の合意が先延ばしになり、リスクオフの流れが充満していた。欧州でも、ムーディーズが多くの銀行金融機関の格下げを示唆した影響もあり、欧州株価は弱く、EUR 売りの流れが続いた。しかし、WSJ 紙ではギリシャは第 2 次支援の救済パッケージの延期を否定、急速にセンチメントは変化し、EUR や AUD を含めリスク資産は上昇へ動き始めた。ECB は 500 億ユーロ相当の保有するギリシャ債を新発債に交換、ギリシャ政府は 3.25 欧ユーロの歳出削減で合意との報道に EUR 買いが強まり、20 日のユーロ圏財務相会合に向け、ギリシャ第 2 次支援で最終調整に入っているとの報道に、EUR や AUD を含めリスク資産はさらに上昇し、ドル安+円安の流れが加速した。

- ◎豪、失業率は低下、雇用者数は 1 年 2 カ月ぶりの大幅増で、豪中銀の利下げ期待が弱まり、AUDUSD は 1.0738 まで一時急伸
- ◎ECB 四半期調査結果、専門家は 2012 年のユーロ圏 GDP を前年比 -0.1% と予想
- ◎WSJ 紙、ギリシャは第 2 次支援の救済パッケージの延期を否定 → EUR 買いが始まる
- ◎米新規失業保険申請件数は、予想・前回を大幅に下回り 4 年ぶりの低水準に改善 → リスク資産が上昇し、ドルと円は下落へ
- ◎米住宅着工件数は、予想・前回を上回り、建設許可件数は、予想・前回を下回る
- ◎米フィラデルフィア連銀業況指数は、10.2 と予想・前回を上回る、
- ◎ギリシャ政府筋、国際支援機関とギリシャ政府は 3.25 億ユーロの歳出削減で合意 → EUR 買いが強まる
- ◎複数の中銀当局者(ドイツ紙ウエルト)、ECB は 500 億ユーロ相当の保有するギリシャ債を新発債に交換 → EUR 買いが加速
- ◎関係者からは、20 日のユーロ圏財務相会合に向け、ギリシャ第 2 次支援で最終調整に入っている → EUR 高の水準を維持

USDJPY

アジア市場は、大枠 78.35~50 のレンジで狭い値動きとなった。欧州市場に入ると、前日の高値 78.66 を超え、ストップの買いに 78.82 近くまで急伸、実需の大口売りに上げ止まり、78.70~80 のレンジで取引が続いた。米国市場に入り、予想を上回る週間失業保険申請件数と住宅着工件数に、78.75 のエキゾチック・オプションバリアをトリガーし、78.94 まで上昇、強い米株に一時 78.96 まで上昇したが、利食い売りのショートカバーの買いに挟まれ、大枠 78.75~95 のレンジで取引が続いた。

EURUSD

アジア市場は、取引開始直後の 1.3065 を高値に、ギリシャ第 2 次支援の合意が先延ばしされ、リスクヘッジの EUR 売りが強く、1.30 のピックポイントを試す動きが続いた。欧州市場に入ると、欧州株や弱く、1.30 のオプションバリアを試し 1.2982 まで下落、1.30 を中心に大枠 1.2990~10 のレンジで売り買いが交錯、下値を試す動きに一時 1.2974 まで値を下げた。米国市場に入り、予想を上回る週間失業保険申請件数と住宅着工件数と、ギリシャは救済パッケージ延期を否定し、1.300 を超え、ECB がギリシャ債券交換に参加との報道に、1.3060 近くまで上昇、20 日の財務相会合でギリシャ第 2 次支援が最終調整との報道に、1.3060 超えのストップを付け 1.3120 近くまで急伸、大枠 1.3100~20 のレンジから、米国株の上昇に 1.3158 まで上昇した。

AUDUSD

アジア市場は 1.0693 で取引が始まり、予想を上回る強い雇用統計に利下げ観測が弱まり、1.0681 → 1.0738 まで急伸、ギリシャ第 2 次支援の合意の決定がなく、EURUSD は弱く、アジア株も軟調に推移し、リスクオフの流れに 1.0650 台まで値を下げた。欧州市場は、一時 1.0690 近くまで値を戻したが、弱い欧州株に 1.0645 まで続落、大枠 1.0650~80 のレンジで取引が続いた。米国市場に入り、予想を上回る米経済指標に買い戻しが強まり、EURUSD の上昇に、1.0720 近くまで上昇、ECB がギリシャ債券交換に参加との報道に、ギリシャ第 2 次支援が合意する可能性が意識され、強い米株に 1.0773 まで上昇、1.0760 を中心とした取引が続いている。

金・原油価格

◎Spot.WTI(Light Crude Oil)

アジア市場は、101.88 で取引が始まり、101.93 を高値に、ギリシャ第 2 次支援の合意が先延ばしされ、リスクオフの流れに、101.31 まで緩やかに値を下げた。欧州市場に入り、一時 101.60 まで値を戻したが、EURUSD の下落に 101.00 近くまで下落、大枠 101.00~40 のレンジでの取引から、一時 100.82 まで値を下げた。米国市場に入り、予想を上回る米経済指標と、ギリシャは救済パッケージ延期を否定し、リスクオフの流れに EURUSD の上昇、ECB がギリシャ債券交換に参加との報道に 101.80 近くまで上昇した。堅調な米国株と、20 日のユーロ圏財務相会合でギリシャ第 2 次支援策が合意に向かう可能性の高まりに、102.65 まで上昇、一時 102.04 まで値を下げたが底堅く推移。

◎Spot.Gold

アジア市場は、1727.6 で取引が始まり、1728.8 を高値に、ギリシャ第 2 次支援の合意が先延ばしされ、リスクオフの流れに、1716 台まで緩やかに値を下げた。欧州市場では一時 1713 台まで値を下げたが、大枠 1715~20 のレンジで取引が続いた。米国市場に入り、2 月 7 日の安値 1710 近くを割り込み、ストップの売りに 1705 近くまで下落、予想を上回る米経済指標と、ギリシャは救済パッケージ延期を否定し、ECB がギリシャ債券交換に参加との報道に、1720 台まで上昇した。堅調な米株と、20 日のユーロ圏財務相会合でギリシャ第 2 次支援策が合意に向かう可能性の高まりに、1730 近くまで上昇した。

前日の主な発言・出来事

欧州関連
イタリア、スペイン国債が上昇 ＝◎ギリシャ救済の合意が近づいているとの見方が広まる
ECB2月の月報 ＝◎四半期調査結果では、専門家は2012年のユーロ圏GDPを前年比-0.1%と予想(前回0.8%)、2013年は1.1%(前回1.6%)を予測 ◎長期的な平均インフレ率は2%、インフレ予想は、2012年=1.9%(前回1.8%)、2013年=1.7%(前回1.8%) ◎経済が低水準で安定する兆しがある
スウェーデン中銀 ＝◎政策金利を0.25%引き下げ1.5%に決定
リカネン・フィンランド中銀総裁 ＝◎金利は最重要手段で、必要なら追加利下げも ◎ユーロ圏と米国ではインフレ期待が確りと固定されており、インフレ期待の抑制で利下げが可能になる
欧州議会 ＝◎欧州委員会にユーロ圏共同債の発行実現に向け迅速な手続きを進めるよう要請

ギリシャ関連
関係者 ＝◎20日のユーロ圏財務相会合に向け、ギリシャ第2次支援で最終調整に入っている。全てを覆す提案を誰かがしない限り、承認されるはず ◎4月の総選挙後の支援の一部提案は、支持が集まらなかった
関係者 ＝◎欧州各国政府は、ギリシャ向け緊急融資の金利行き下げと、ECBの貢献活用により、次回ギリシャ支援プログラムの財源不足をおぎなうことを検討 ◎現在協議中の救済パッケージではギリシャの債務は2020年にGDP比129%が限度で目標120%(現在160%)を達成できない、15日のユーロ圏財務相の電話会議で、支援の予定額と必要額の差を埋める方法を模索した、提案はギリシャ向けの融資金利引き下げ、1300億ユーロの支援規模の拡大、民間債権者の負担拡大、ECB保有のギリシャ国債をEFSFに売却し得られた利益を放棄が含まれる ◎このため、20日の財務相会合で、第2次ギリシャ救済パッケージ全体は承認せず、民間債権者によるギリシャ債務交換の開始だけを定める可能性がある
ギリシャ政府筋 ＝◎国際支援機関とギリシャ政府は3.25億ユーロの歳出削減で合意 ◎防衛費、公務員給与、政府運営費の削減で実現する
リギ・エストニア財務相 ＝◎欧州は2年間にわたり赤字削減目標を達成できないギリシャに対し、姿勢を硬化させている ◎批判的な声がより大きかった
複数の中銀当局者(ドイツ紙ウエルト) ＝◎ECBは500億ユーロ相当の保有するギリシャ債を新発債に交換 ◎交換は20日までに完了、利益は中銀を経由して各国政府に分配し、政府はこれを自由に活用する ◎ECBが民間投資家と共に強制的にギリシャの債務交換に参加せざるを得ないことを避ける技術的措置→ ECB報道官はこの報道にコメントせず
ユーロ圏財務相 ＝◎20日にギリシャ債務交換の承認を目指す
フランス ＝◎各国中銀にギリシャ債の減免を提案
トロイカ ＝◎現行案では2020年のギリシャ債務はGDP比129と予想
デヤール・オランダ財務相 ＝◎ギリシャ救済で民間部門関与(PSI)を拡大する可能性は排除しないが、すでに巨額で少数意見 ◎ユーロ圏財務省の高官が19日に会合をもつ
ポルトガル失業率は過去最悪 ＝◎第4四半期失業率は14%(第3四半期12.4%・支援想定今年の失業率13.7%)
デヤール・オランダ財務相(オランダ紙・フィナンシャエール・ダフプラット) ＝◎ギリシャはまだ救済に必要な条件の全てを満たしていない ◎IMFによる債務分析が最重要 ◎ギリシャの指導者に対する信頼は最低地点にある
モンティ・イタリア首相(15日・欧州議会) ＝◎われわれは、ギリシャに対する現在の非常に厳しいアプローチは行き過ぎだと考えるかもしれない、実態はおそらくそうだ ◎ただ、ギリシャの政策には長年にわたって考え得る最悪の政治慣行が横行していたということをおぼろげに忘れない
欧州各国はギリシャ政府の歳出削減の確約を歓迎しているが、支援の取りまとめは欧州の南北間格差による要因で溝が埋まらず難航している、経済がより良好な国々の納税者は追加支援に反対している
カンペーター独副財務相 ＝◎20日に第2次救済条件を満たす必要があり、できなかったら厳しい結果に直面 ◎連帯という点では我々のアプローチは極めて正しい ◎ギリシャ国民が与えられて責務を果たすことを期待している ◎ギリシャが自らの責任をはたすのか、それとも我々が望まない別の行動を決定せざるを得ないのか、20日に分かる。
ギリシャ政府当局者 ＝◎エスクロー勘定の設置協議はEUと継続している

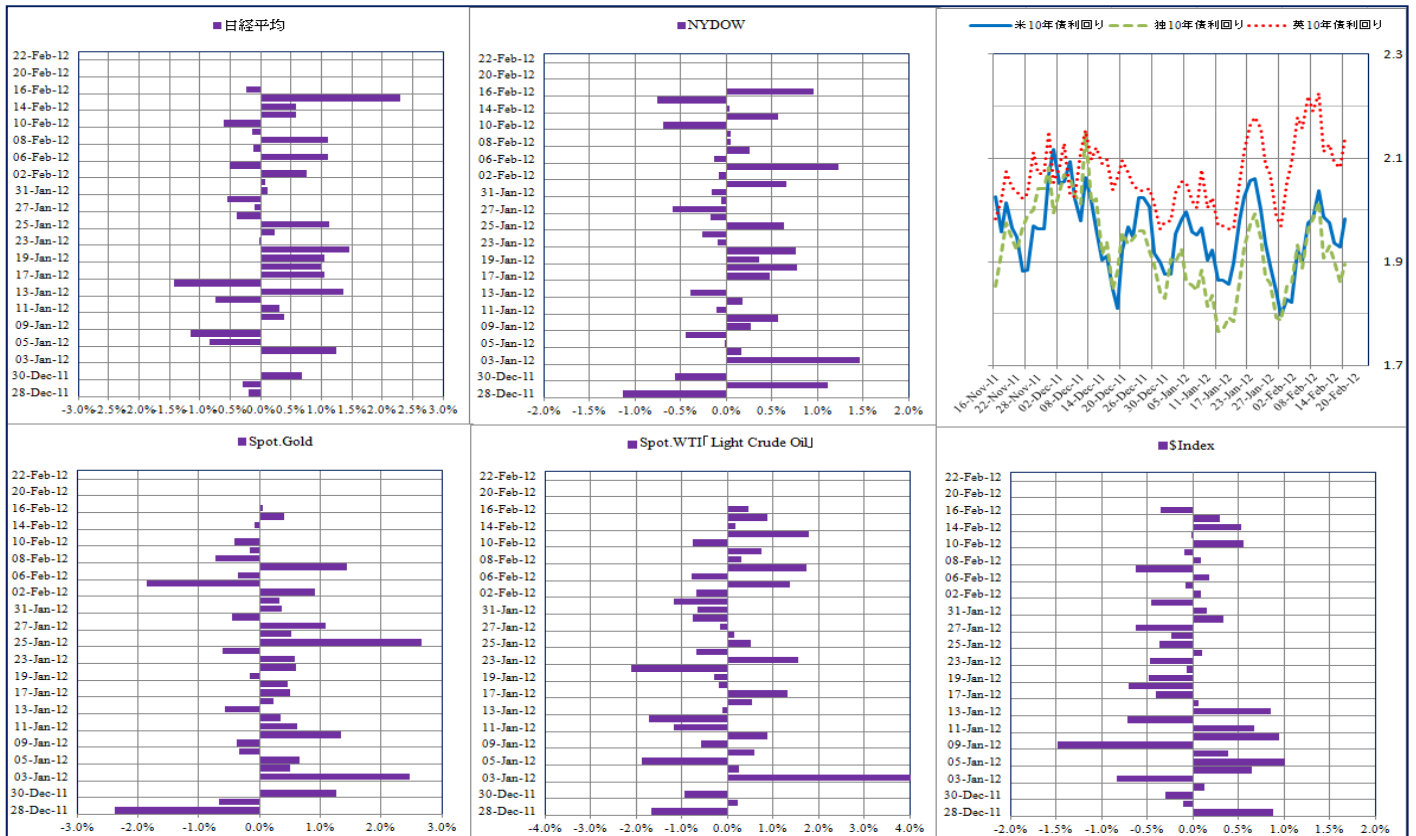
CHN	中国人民銀行の四半期金融政策報告 ＝◎中国への資本流入が今年に入り回復し、目先で預金準備率の引き下げられる可能性が弱まる
CHN	中国商務省 ＝◎海外から中国への直接投資は3か月連続で減少 ◎対内直接投資は前年同月比-0.3%で、2011年11月に2009年以來の減少を記録したが、12月も-12.7%となっていた。
CHN	中国国家情報センター・経済予測部主任 ＝◎温家宝首相が3月の全国人民代表大会で今年の成長目標を7%~7.5%に置く発表をするもう ◎8%を下回る設定は2004年以來
CHN	2月の月例経済報告 ＝◎中国で投資・輸出の伸びが鈍化、中国の判断を1年半ぶりに、韓国、タイ、シンガポール、他のアジア地域を半年ぶりに下方修正 ◎債務危機で景気の下振れリスクが高まり、輸出の伸びが鈍化

EUR	ムーディーズ=◎18の金融機関の長期債務・預金格付けはジャンク級も ◎ユーロ圏 66 金融機関の短期格付けの引き下げも ◎ユーロ圏 109 金融機関の長期債務・預金格付け引き下げも、 ◎BOA、ゴールドマン・サックス・グループ、JP モルガン・チェース、モルガン・スタンレーの格付けを見直す ◎UBS とクレディ・スイス・グループ、モルガン・スタンレーの格付けを最大 3 段階引き下げの可能性
GBP	ムーディーズ=◎英国の景気が悪化した場合「AAA」格付けが引き下げられる可能性がある→ 2034 年債の国債入札は、平均利回り 3.122%(前回 3.955%)低下し、応札倍率は 1.62 倍(8 月 2.33%)も下回った
OTH	イラン国営プレス TV=◎国産燃料棒を原子炉に装着 ◎イラン大統領は核開発で大きな成果と発言
USD	米上下院の交渉当事者=◎給与税減税の年内延長で最終的な合意が成立
USD	バーナンキ FRB 議長=◎景気改善の兆しは出ているが、回復は意気消沈するほど穏やか
USD	ブレインード米財務次官=◎欧州債務危機の解決で協力するために IMF への追加資金拠出はない
USD	カーニー米大統領報道官=◎イランにいる国際原子力機関(IAEA)査察団よりの詳細な上昇を期待している ◎今回の発表と原油輸出の停止は挑発的な行動で、国際的な制裁の影響から注意をそらすのが目的

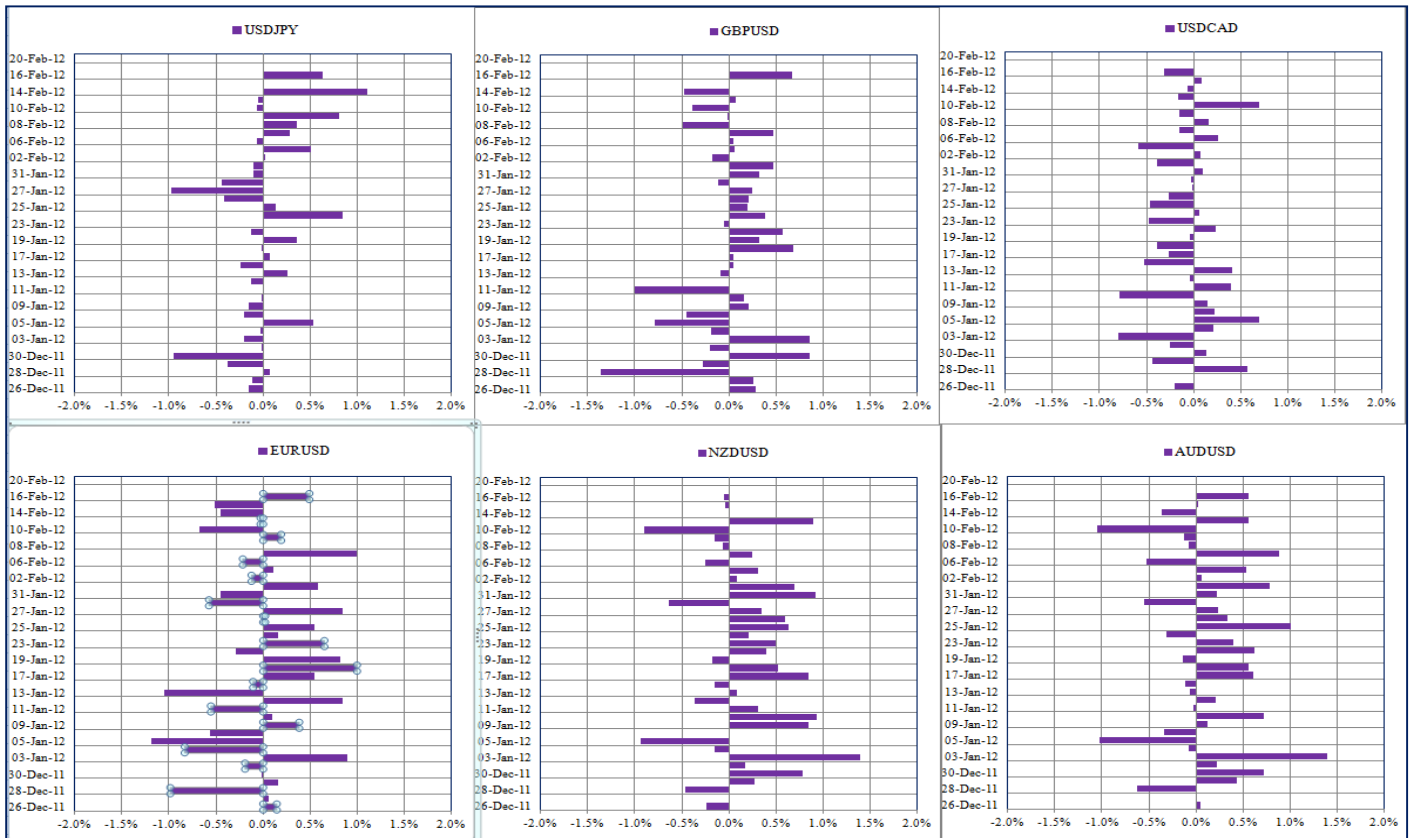
前日の経済指標と結果

9:00	AUD 2月 消費者インフレ期待=2.5%(予想 1月 2.8%)
9:00	NZD 2月 ANZ 消費者信頼感指数=前月比-2.4%・113.3(予想 1月 7.1%・116.1)
9:01	GBP 1月 ネーションワイド消費者信頼感=47(予想 40 前回 38)→ 5 か月ぶりの高水準
9:30	AUD 1月 失業率=5.1%(予想 5.3% 12月 5.2%)、雇用者数変化=46300人(予想 10000人 12月-35600←29300人)、労働参加率=65.3%(予想 65.3% 1月 65.2%)
22:30	CAD 12月 製造業売上高=前月比 0.6%(予想 0.5% 11月 1.9←2.0%)
22:30	USD 1月 生産者物価指数=前月比 0.1%(予想 0.3% 12月-0.1%)、前年比 4.1%(予想 4.1% 12月 4.8%)、コア前月比 0.4%(予想 12月 0.3%)、コア前年比 3.0%(予想 2.7% 12月 3.0%)
22:30	USD 週間新失業保険申請件数=34.8万件(予想 36.5万件 前回 36.1←35.8万件)
22:30	USD 1月 住宅着工件数=69.9万件・1.5%(予想 67.5万件・2.7% 12月 68.9←1.9←65.7万件・-4.1%)、建設許可件数=67.6万件・0.7%(予想 68万件・1.3% 12月 67.1万件・-1.3←67.9万件・-0.1%)
0:00	USD 2月 フィラデルフィア連銀景況指数:業況指数=10.2(予想 9.5 1月 7.3)、新規受注=11.7(1月 6.9)、雇用者数 1.1(1月 11.6)=1月 19.1、新規受注=11.7(1月 6.9)

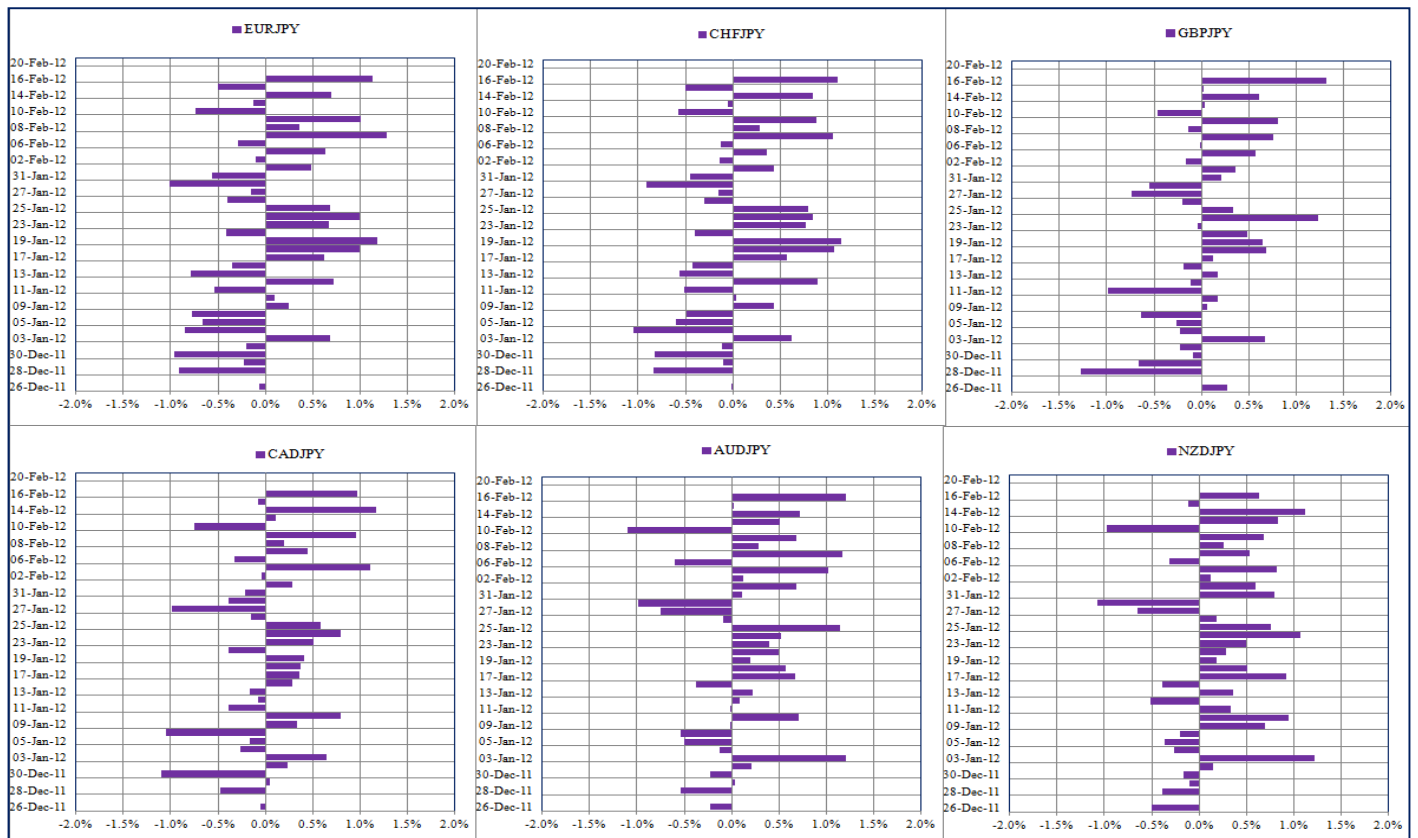
日経平均株価・NYダウ平均株価・SpotGold・SpotWTI・\$Index の(Daily 変動率)、10年債利回りのDaily 推移と比較



主要通貨のDaily 変動率 (%)



円クロスの Daily 変動率(変動率)



USD=米国、JPY=日本、GER=独、GBP=英国、CAD=カナダ、AUD=豪州、NZD=ニュージーランド、
CHF=スイス、NOK=ノルウェー、SEK=スウェーデン、CHN=中国、FRF=フランス

本レポートで言及している市場予想の出所=fx360.com,ロイター社。各国経済指標・日時の出所=fx360.com ロイター社

外国為替保証金取引(FX)及びCFDには、高いレベルのリスクが潜在しており、全てのお客様に適した投資商品とは言えません。高いレベルのレバレッジは、利益ももたらしますが、損失ももたらします。預託した資金を超えて損失を被る可能性もあるため、損失に耐えられない金額を投資するべきではありません。過去のパフォーマンスが、必ずしも将来の結果を示唆しているわけではありません。

本レポートの内容は

- 情報提供の目的にのみ供されるものとし、いかなる投資商品の提供・勧誘その他法的に拘束され得る行為、また、それら投資商品の推奨、助言等を意図したものではありません。
- マーケットに関する意見・予想はその正確性や完全性についてそれらを保証するものではありません。
- レポート著者の予想・意見は必ずしも、弊社及び弊社関係者の見方を反映したものではありません。
- 筆者によって提供される市場に関する如何なる予測や見解についても、その正確性が検証されている訳ではありません。
- 当社は本レポートの内容に依拠してお客さまが取った行動の結果に対し責任を負うものではありません。

GFT はお客様への一般的な情報として本資料を提供していますので、投資判断を行う際の詳細な独自調査に代えて本資料に依拠することはお控えください。

GFT は、本資料に含まれる情報に基づいた投資の結果として発生した損害に対して、如何なる責任も負いません。また、投資、法律、会計、税務、またはその他の専門的助言についても、一切提供することはありません。これらの専門的助言が必要な場合は、専門家にご相談ください。

同支店は、日本においては、グローバル・フューチャーズ・アンド・フォレックス・リミテッドとして第一種金融商品取引業者登録(関東財務局長(金商)第268号)および商品先物取引業者許可を取得しており、社団法人金融先物取引業協会および日本商品先物取引協会の加盟業者です。www.gftforex.co.jp

© 2011 グローバル・フューチャーズ・アンド・フォレックス・リミテッド 著作権/著作権所有。無断複写・複製・転載を禁ず。

CD08J.005.113011